

今年度の実習・研修を振り返って —特に博物館実習について—

楡 井 尊

当館では、一般向けの行事の他に指導者や学生対象の実習・研修の受入を、毎年数多く実施しています。平成22年度は、教員対象の理科実習として、幼稚園教諭初任者研修・中学校理科5年経験者研修・長瀬町小・中学校教員研修・中学校理科初任者研修を実施し、合計120名の研修を行いました。また、高校教員5年経験者研修・20年経験者研修等、博物館の職場を体験する社会貢献研修を実施し合計11名の教員を受け入れました。

中学生の職場体験として、長瀬町長瀬中学校、皆野町皆野中学校の生徒を合計12名受け入れました。

学芸員資格の必要単位となる博物館実習は、5大学8名の実習生を受け入れました。また、インターンシップ事業で2大学2名の学生を受け入れています。教職員と社会教育施設職員等を対象とした「授業に役立つ自然史体験講座」は29名の参加がありました。

今回は、その中でも8月に実施した博物館実習について振り返ってみたいと思います。

博物館実習については、毎年カリキュラムを組んで博物館の4本柱である、展示・資料収集・調査研究・教育普及の各分野のバランスを考えて組んできました。いっぽう、学芸員に求められる資質の向上を目指して、国レベルで学芸員養成のあり方が検討されています。その流れの中で「博物館実習のガイドライン（文部科学省2009〔平成21年4月〕）」が出されています。当館では平成22年度の博物館実習から「博物館実習のガイドライン」を参考に、カリキュラムを一部見直しました。

具体的には、「展示解説に関する実習（解説プログラムの作成、模擬解説の実施）」を新たに組み込みました。4日目に半日解説プログラムの企画立案を、6日目に半日模擬解説を実施しました。各学生の専攻している分野も考慮して展示室の希望の1コーナーを選んでもらい、10分間をメドに来館者に解説するシナリオを企画してもらいま

した。模擬解説は、実際の来館者を前にして解説を実施してもらいました。

この実習は、実習生にとってもたいへん印象深かったようでした（かなりプレッシャーも感じていたようです）。実際に展示を解説するとなると対象となる展示物を深く知らないといけないこと、また、全く知らない人の前で話すこともたいへんだったと考えられます。



模擬展示解説のようす

企画立案のあと、居残りをしてシナリオを練ったり、練習していた学生も多く見受けられました。実習生なりにどうしたら話を聞いてもらえるか、工夫をして取り組んでいたことは、とかくマンネリ化した解説で済ましがちな、私たち学芸員にとっても良い刺激になりました。来館者の方々もとても温かい目で解説を聞いてくれ、終わった後には、拍手も出ていました。

今回の試みは、実習生にとっても博物館にとっても、意義深い試みだったと考えています。

また、来館者にとっても学芸員の卵がどのような勉強をしているのか、知る数少ない機会でもありました。次年度以降も発展させた形で「展示解説に関する実習」に取り組んで行きたいと考えています。

（にれい たかし・学芸主幹）